科目名	助産診断・技術学Ⅱ (Midwifery Clinical Skills Ⅱ)			科目コード	S108
単位数	２単位	選択区分	必　修	時間数	60 時間
区　分	助産学実践領域	学　期	前　期	関連DP	助①②④⑥
担当教員	今村　朋子、井上　明子、伊藤　美香、瀧本　千紗、山下 玲子				
授業概要	本科目では分娩期の内容に焦点を当てる。助産診断・技術学Ⅰから継続した産婦・家族の事例展開を通して、助産師として、分娩期の診察や分娩介助を自立して実施するために必要な基礎的能力を養う。特に、女性の産む力と児の生まれる力を引き出すための援助について、様々な助産技術を用いた関わりを中心とした事例の展開を行う。				
授業目標	1　分娩期の診断と援助を行うための知識・技術を修得し、助産過程を展開することができる。 2　正常分娩を自立して取り扱うための分娩介助技術の基本を修得することができる。 3　女性にとって「出産」とは、どのような意味を持つのか、自分の考えを持つことができる。				

授業計画

回	項　　目	内　　容	担当者
1. 分娩第１期の助産診断・技術			
1	分娩期の対象理解と助産師の役割	「満足いくお産」「いいお産」とは 助産ケアが目指すもの	今村朋子
2	分娩期の助産診断と記録	分娩の４要素と助産診断類型、分娩期の記録	
3	お産のしくみ理解のワーク	お産のしくみを立体的にイメージ 内診による観察項目とビショップスコア	
4～5	分娩期の フィジカルイグザミネーション(2)	【技術演習】内診の技術 内診技術の基本 内診・外診所見を統合したアセスメント	今村・井上 伊藤・瀧本 山下
6	様々な診察手段を用いた分娩予測 (135 分)	フリードマン曲線と分娩予測 分娩の促進・遅延因子 様々な診察手段の選択	今村朋子
7	娩出力のアセスメントと産痛緩和	【講義・技術演習】陣痛の定義と診察方法、 陣痛と産痛、産痛のメカニズムと産痛緩和 様々な産痛緩和法の実践	井上明子
8～9	出産を正常に保つ援助とは？	内診課題の解説 産婦の産む力を引き出す援助 出産とホルモン・環境・姿勢	今村朋子
10	事例展開⑥　分娩第１期：陣痛発来 (45 分)	【実践演習】分娩開始の判断と電話対応	今村朋子 瀧本千紗 井上明子
11	事例展開⑦　分娩第１期：入院時	アナムネの聴取、分娩期の情報整理と助産診断 【実践演習】入院時の助産診断と経過予測	
12～13	事例展開⑧　分娩第１期：潜伏期	パルトグラムの記載、初期診断と児娩出予測 スタンダードプランの活用 【実践演習】潜伏期の観察と援助	今村朋子 瀧本千紗 井上明子
14～15	事例展開⑨　分娩第１期：活動期	スタンダードプランの活用と個別プランの展開、 全開が近づいた徴候、付属物の診断 【実践演習】活動期の観察と援助	今村朋子 瀧本千紗
16	お産の流れを読みとるワーク	経産婦の分娩経過、遷延分娩、回旋異常	今村朋子
17	娩出力異常の診断と助産ケア	微弱陣痛・過強陣痛、分娩誘発の薬剤管理と援助	井上明子

助産診断技術学Ⅱつづき

回	項　　目	内　　容	担当者
２．分娩第２～４期の助産診断・技術			
18	分娩介助の基本(1) 分娩介助イメージ（60 分）	映像でイメージする「出産と分娩介助」 分娩介助ノートの活用	今村朋子
19	分娩介助の基本(2) 分娩介助の意義　（120 分）	分娩介助の意義と会陰の解剖 会陰の解剖と児娩出のしくみ WHO：ポジティブな出産体験のための分娩期ケア	
20	分娩介助の基本(3) 事例展開⑩-１　分娩介助の流れ	・分娩第２期の流れとリスク判定 ・分娩第２期のパルトグラムの記載	
21～23	分娩介助技術(1)	【講義】仰臥位分娩の介助 分娩準備～児娩出・胎盤娩出・産道の精査 ・分娩介助技術ビデオ視聴 ・分娩介助ノートに沿った実技デモストと解説	井上明子 伊藤美香 山下玲子
24	分娩介助技術(2)	【演習】仰臥位分娩介助技術演習 児娩出～胎盤娩出の介助の実技	井上・伊藤 今村・瀧本 山下
25	分娩介助技術(3)	【講義・演習】 分娩第２期の娩出力の診断と調整 努責の誘導と呼吸法	山下玲子 井上明子
26～27	出生直後～早期新生児の 健康診査と援助	【講義・技術演習】出生前の状態予測と児を迎える準備、出生直後新生児の全身観察、早期皮膚接触時の観察とケア、早期新生児期の観察	瀧本千紗
28	事例展開⑩-２　フリースタイル分娩	フリースタイル分娩お産劇 自然出産の意義とお産のケアエビデンス	今村・瀧本 井上・伊藤
29	事例展開⑪　分娩第３～４期	【実践演習】分娩第３～４期の助産診断と援助	今村朋子 瀧本千紗
30	分娩終了時診断と公的記録	付属物の精査、分娩終了時診断と産褥・新生児期の予測、助産師の公的記録	今村朋子

成績評価方法	筆記試験（40%）、入院時診察試験：診察技術（20%）、初期診断（20%）分娩介助実技試験（20%）とし、各評価ともに６割を合格の条件とする。　※授業態度で減点あり。
教科書	共通シラバスのとおり 教員作成の「分娩介助技術ノート」をテキストとして配布する
参考図書等	・石川紀子、中川有加、村越 毅 編著「THE 分娩」（メディカ出版） ・進 純郎、堀内成子「(ブラッシュアップ助産学) 正常分娩の助産術」（医学書院） ・進 純郎「(助産師必携) 会陰保護技術」（メディカ出版） ・田村正徳「日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト」（メジカルビュー社）
授業時間外の学習について	毎回、次の授業に向けた課題があるため、授業時間外での事前学習が必要となります。 授業は、各自が実施してきた課題を確認する形式で行います。
関連科目	周産期医学、統合ヘルスケア、助産診断・技術学Ⅰ　⇒本科目 ⇒助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術特論、助産学実習Ⅰ～Ⅳ、周産期ハイリスクケア論
備考	※毎回、次の授業に向けた課題があり、実施してきた課題に沿って授業を行います。 ※16 回の後、分娩期の診察についての実技試験を実施します。（今村・井上・伊藤・瀧本・山下） ※27 回の後、分娩介助技術についての実技試験を実施します。（今村・井上・伊藤・瀧本・山下）